

ファンダメンタルズ プログラム交流実態調査

中間報告

2025/03/05
ファンダメンタルズ プログラム

ファンダメンタルズプログラムは、特定非営利活動法人ミラツクの協力のもと、「ファンダメンタルズ プログラム交流実態調査」を実施しました。本調査は、プログラムに参加したアーティストや研究者の体験を可視化し、3年間の活動を通じて得られた意義や可能性を整理・構造化することを目的としています。

これにより、「ファンダメンタルズプログラムでの体験(得られた価値)は何だったのか」を言語化し、今後の展開に活かすことを目指しました。

本調査では、プログラムに参加する8名の研究者と7名のアーティストにインタビューを実施し、グラウンデッド・セオリー・アプローチ¹に基づいた分析を行いました。その中間報告として、以下に主な結果をまとめます。

ファンダメンタルズプログラムでの体験(得られた価値)は何だったのか？ 分析結果

1.個人の内省・拡張・深化

1-1.新たな出会いが意欲を向上させると共に、多角的な視点を育てる

- 自身の研究や制作を多角的かつ広い視野で捉えられるようになる
- 新たな価値観や世界との出会いが活動意欲全般を向上させる

1-2.領域間での差異を知り、自分の中の科学・アート領域への思考が深まる

- 領域間の"言語"の違いを知ることによって、自身の思考が深まった
- 交流によって自分のなかの科学・アート領域の理解度が上がった

¹ インタビューなどの質的データをコーディングし、仮説なしに比較分析を重ねながら理論を導く研究手法です。

2. 交流的価値

2-1. 科学とアートのアプローチの掛け合わせが、予期せぬ強い作品を生み出す

- 科学にアーティスト特有のこだわりが加わることで、強さのある作品が生まれた
- 交流の過程を都度結晶化することが価値あるアウトプットに繋がる
- 予期していないアプローチとの出会いが生じる

2-2. 専門性を持つ参加者による純度が高くお互いの特徴を活かし合う対話ができる

- 高い専門性を持った者同士で対話ができる
- 抽象と具体の行き来が起こる交流ができる
- 他のペアの異なる展開や発想からも良い刺激を得られる
- 分野は違えど、対等な立場でお互いの特徴を理解し、活かすことができる

2-3. 互いの共通性に気づいたことで、安全な対話ができ、対象を深く理解できる

- アートとサイエンスの共通性に気づき、両者を別物として切り分ける意識がなくなった
- 関心の射程範囲や共通性が担保されているので、深い理解ができる
- 科学者とアーティスト両者は、自らの美学に基づき探求する姿勢を実感した
- 雑談を可能にする長期的な交流は、深い考察や新たな展開につながる

2-4. 長期的で制約のないプログラム設計が幅広い交流を生み、深い考察や共創を促す

- 前提が求められない共創的な環境なので交流しやすい
- 制約の少ない設計により心的負担が減り、自由で多様な発想とアプローチが促される
- コミュニケーションの試行錯誤によって相互理解が深まる

3. 社会への接続・可能性

3-1. 普遍的なものの探求に価値を置くことが大きな社会的価値につながる

- 不確実性の高い状況に取り組むことで 見え難い価値を追求できる
- 対象を捉える上で、論理で規定されない混沌さや無秩序さが重要だと認識した
- 想定もしない社会の大きな物語に貢献する可能性を感じる

3-2.fzpでの学びや出会いが、自身の専門領域での活動に新たな展開や関係性をもたらす

- fzp参加者以外にも多様な人との出会いがあり、人間関係が広がる
- 科学とアートの掛け合わせにより、市民にとって科学が身近な存在になる
- 普段の自分の活動にも展開の兆しが生まれる
- 異なる領域との交流が科学・アートを内側から拡張する

今後、本調査の最終報告に向けてさらに詳細な分析を進め、プログラムの意義をより明確にしていきます。

現在、プログラム参加者を公募中です。

科学者・美術家の皆さまにとって、新たな視点を得る貴重な機会となりますので、ぜひ応募をご検討ください。

2025年度参加者公募詳細：

<https://www.fundamentalz.jp/post/20250303-fzopencall#viewer-5n1nn>